

各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

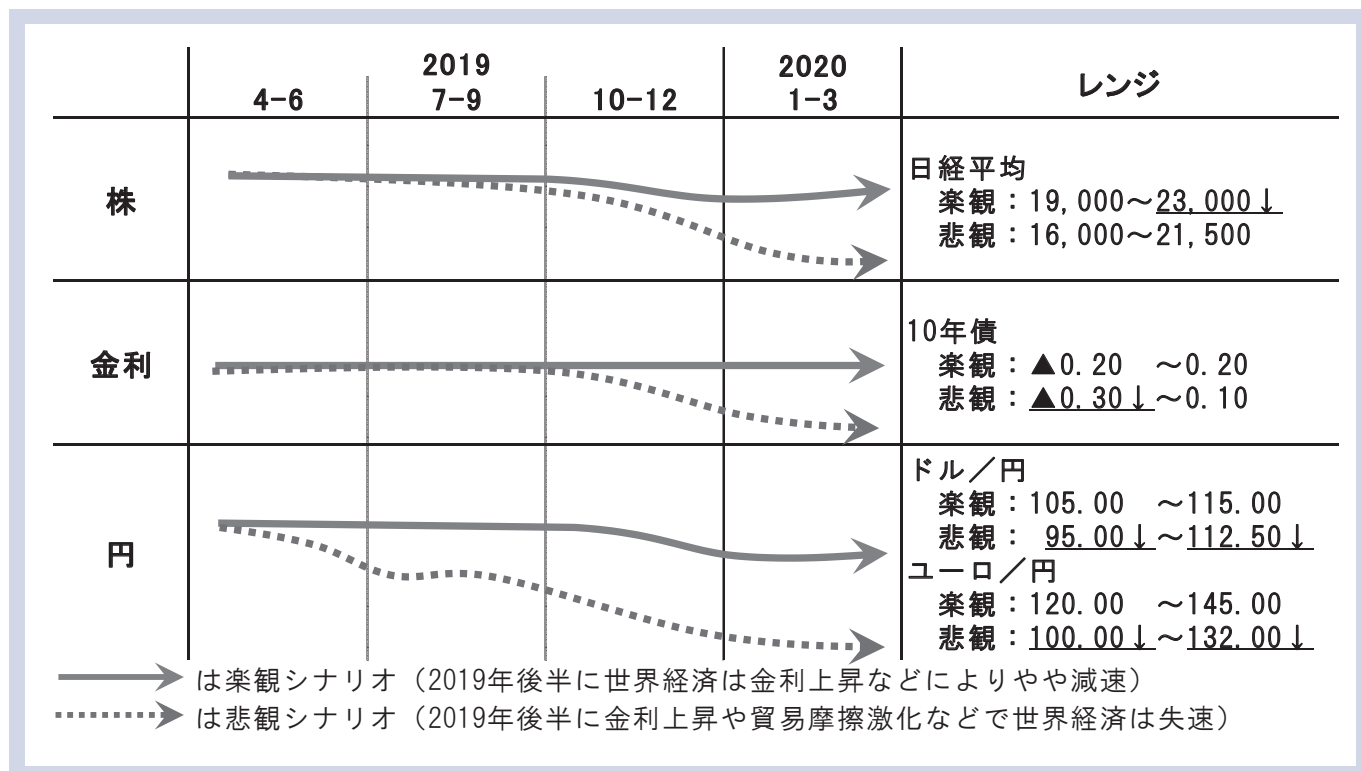
(3月5日時点)

グローバル経済・マーケット見通し

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	海外経済の減速に伴って輸出に頭打ち感がみられていることから、景気は足元で踊り場状態にある。中国をはじめとして海外経済に下振れリスクがあることに加え、10月には消費増税も控えているなど、景気の先行き不透明感も増している。当面、景気は方向感に欠ける動きが予想される。
② 米国	ねじれ議会になったことで政府機関が閉鎖されるなど政策の不透明感が高まっているが、9月末にかけて雇用・所得、資産残高の増加、減税による個人消費の押し上げを背景に堅調さを維持しよう。米中貿易戦争は引き続きリスク要因だが、堅調な景気拡大、労働市場の逼迫が続く中、FRBは当面様子見を続けると予想する。
③ 欧州	米中貿易戦争の余波やブレグジット協議の不透明感が欧州景気に影を落としている。イタリアが2四半期連続のマイナス成長に転落し、牽引役のドイツでも減速感が強まっている。年明け以降、企業の景況判断が一段と冷え込んでいる。良好な雇用・所得環境や財政政策が景気の下支え要因となるが、当面は緩慢な成長にとどまろう。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の頭打ち感が外需を通じて景気の重石になる。年明け以降の金融市場の変化は追い風になる一方、米中貿易戦争は中国依存度が高いアジア・新興国にも影響を与えるなど、今後の行方には引き続き要注意。他方、中国は景気刺激策に動く姿勢をみせており、アジア新興国への下支え効果が期待される。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません
レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正: ↑ 下方修正: ↓)